

ウォーキングレポート



6月：藤井聡太最年少名人



7月：4年振り制限なき博多山笠開催



8月：甲子園決勝戦：慶応 107 年振り優勝 vs 仙台育英準優勝

季刊誌 第 25 号(2023 年 6 月～8 月)

発行月 2023 年 9 月

発行 がやがや深沢会

目 次

<u>NO.</u>	<u>表 題</u>	<u>投稿者</u>	<u>頁</u>
1.	夏の日本一周クルーズ 19日間	あらんどぼん	1～3
2.	共 存	チンチラママ	4～5
3.	世界遺産・富岡製糸場	ウンソッリース	6～7
4.	久能山・東照宮	ミホコ	8～9
5.	都内の歌舞伎由縁の地	ドジアツ	10～11
6.	お気に入りの道	ウオーキングばあば	12～13
7.	立つ・歩く・立ち止まる；朝鮮	Eimei	14

私たちは、世田谷区の認知症プログラム（パソコン講習とウオーキングの習慣）を終了して、自主化の後にも認知症に効果があるウオーキングやパソコンの教え合いながらミニコミ季刊誌「ウオーキングレポート」を年に4回発行などの活動を継続しているグループです。足掛け7年目になります。

主な活動内容は毎月第二月曜日午後ミーティング（主にデイホーム深沢会議室）、第四月曜日はウオーキング会（幹事輪番制）を原則に、「認知、フレール、コロナにまけない！」頭・身体・心のストレッチを励行しています。

参加ご希望の方、ご意見などは下記にご連絡下さい。

がやがや深沢会 事務局： 福井  090-9207-4522

Mail: jiggyokinuta@gmail.com

2023 年夏日本一周クルーズツアー19 日間に参加して



2023—9—1

旅行実施：ピースボート+ジャパングレイス、**船舶**：Pasific World 号, 77,441 トン、

日程：7/29 東京港発、7/30 石巻、8/1 釧路、8/4 小樽、8/5 函館、8/7,8 金沢、8/9 境港、
(8/10 博多)、8/11 釜山、8/13 那覇、(8/15 高知)、8/16 東京港、全 19 日 (台風寄港中止)

夏休み特典：小中高生は保護者 1 人に一人無料同伴可能 (諸手続費用実費)。次女の息子 (高 2, 中 2) を同伴し、ツインルームに二段ベッドで 4 人狭いながら、孫は良い経験でした。

乗船顧客：約 1800 名。日本人約 1000 名、中国語圏 (台湾・香港・シンガポール等) 約 600 名、その他欧米等約 200 名、国籍約 30 ヶ国、キッズ約 250 名。船内放送は英語・日本語・中国語。感覚的に高齢者が 7 割、80 歳以上も想定以上に多い。歩行困難者 (車椅子・歩行補助具使用者) も散見される。(口の悪い人は「動く養老院」と揶揄していた。)

D1, 2; 7/29@東京港～7/30@石巻：お台場東京港クルーズターミナルでプラスバンドで出港式、離岸して右手に大井コンテナヤード、羽田空港、海蛸が左手、右は横須賀軍港、左手は君津工業地帯、鋸山、館山を過ぎて房総沖から鹿島灘へ、、、翌朝石巻着岸。

1800 名の乗客下船に 2 時間近くかかる。シャトルバスで南浜つなぐ館、予約のベランダ BBQ、タクシーで日和山神社、「みやぎ東日本大震災津波伝承館」、市役所とイオンが同居、その周りはカラーマンホールで町興しの工夫、洗剤など買物して、車で石ノ森漫画館に閉館前 30 分で飛込む。閉館時のカラクリ人形パフォーマンスに巡り合わせた幸運。石巻市はピースボートが大震災直後から支援交流で大歓迎、着岸時プラス歓迎演奏、離岸式は大打上花火！

D3; 7/31@終日船内：石巻から北太平洋を一路釧路へ最短距離航行。船内生活の一端を紹介。映画館 2 か所、**室内 TV** は英語 News、TV 映画も洋画 (中国語字幕)。ピースボートが自主製作した Video 放映。**船内生音楽は主に 3 か所**で、ピアノ・ヴァイオリンの duo、ギター弾き語りなど 3 組が午前、午後、夕方に演奏。**バー**ではロックバンド、ピアノ & ボーカルでフロアは**ダンスホール**に早変わり。**ラウンジ**ではゲストバンド (今回はペルー民族音楽イジャイ)、金沢からニュージーランドのマオリ族の少年少女約 20 名 (ピースボート交換留学生) によるハカの演技など。その他カルチャースクール (水彩画、手芸、サルサ、ヨガ、ストレッチ) ジムは運動機械類自主利用。プール、ジャグジー、サウナ。ゲストが歴史、国際情勢、地域文化、世界遺産などの文化講演会を開催。趣味に合致する人には、それが楽しみでピースボートトリピーター 10 回前後はザラで中には 18 回の猛者も。ダンス、ヨガ、スエーデンウォーキング、水彩画などの趣味人多数。食事はブュッフェ、昼はピザとスープ、夜は正餐フルコースなど組合せ自由。ウエルカムパーティにはドレスコード正装指定で大盛況。

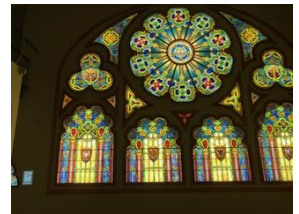
D4; 8/1@釧路：4 人で釧路市内観光・海鮮丼ランチ付きツアー。丹頂鶴自然公園では保護活



動で絶滅危惧種から回復と一安心。釧路湿原展望台から湿原を一望。釧路博物館で歴史、地理、先住民の生活・文化などが展示。海鮮三色丼（いくら、雲丹、蟹）は絶品でした！

D5,6;8/2,3 終日船内；本来釧路から北方領土の国後択捉海峡を通過し、世界遺産の知床半島洋上クルージング、宗谷岬廻りが今回クルージング最大ハイライトで国際情勢、地理、歴史の生きた教材と私が孫連れ申込んだ最大動機だが「G7 広島声明でロシア非難決議」にロシアが反発。これに外務省・国交省（観光庁）は過剰反応して北方領土通過見合わせの圧力、事実上ギブアップさせられた。釧路から道南、津軽海峡通過後宗谷岬に向けて日本海を宗谷岬まで北上。小樽、函館と逆順の無理な航路で長時間連続航行。肝心の利尻富士は日本海道北は終日濃霧で何も見えない何の為 60 時間航行したのか？ 外務省弱腰も腹が立つ。

D7;8/4@小樽；9 時過ぎに観光タクシーで天狗山迄ドライブして山頂から市内展望後、小樽駅前ドン・キホーテで船室コンセントコンバータを購入。小樽運河クルーズ 40 分で 3 つの運河を一巡するコンパクトコース。名物「なると」鶏肉丸揚げ、から揚げなど地元の人しか知らないお店に行けた。その後は運河博物館、小樽芸術村の「ニトリ美術館」を見物。



D8;8/5@函館；JR 函館駅から市電で五稜郭公園前。五稜郭タワーでトップから五稜郭を見下ろして市内も展望。名物の函館塩ラーメン「あじさい本店」で本格ラーメンを堪能。トラピスチヌ修道院にタクシー往復。金森赤煉瓦倉庫街に行った。スッカリお洒落な雰囲気に変貌。ウインドウショッピングで腹減らしして、海鮮市場で各自好きな海鮮料理を味わった。観光タクシーで 1 時間函館山夜景コース。ケーブルカーやバスで続々と夜景観光客が山頂に集まる。タクシー駐車場裏道の穴場から、函館湾に着岸中の我がクルーズ船も良く見えて反対側の噴火湾も見える絶景ポイント。帰船したら微熱 37.3 度。バツファリン服薬。北海道各地が真夏日・猛暑日とは異常気象で熱中症患者続出。

D9,10,11;8/6@洋上～8/7,8@金沢；朝熱は 38.5 度、9 時前に船医室に行ったが既に長蛇の列。待たされて受診。感冒の喉薬等処方、服薬して船室ベッドで寝てました。同日夜半激しく咳込んで家内は殆ど寝られなかったと。金沢は船自体が一泊二日。1 日目は福井県立恐竜博物館日帰り計画を、一番楽しみにしてた私は風邪でギブアップ。金沢市内の専門医で注射と点滴、施薬受けた。家内と孫二人は JR 金沢から特急サンダーバードで福井、えちぜん鉄道で勝山、シャトルバスで恐竜博物館を見学して帰路も特急利用して帰船した。二日目も私は船室で養生。家内と孫達は金沢城、兼六園、21 世紀博物館など自主観光。台風 6 号が九州方面で居座り、船長判断で博多寄港は中止。境港で延泊して台風をやり過

ごすことに航路変更。従い孫（中2）は境港離脱、米子ー羽田に急遽変更することにした。

D12、13;8/9,10@境港；予定していた「出雲大社巡り」は兄孫一人で参加。弟孫は米子空港へ私が引率して、空港で全日空の搭乗手続き終えて、中2の一人旅を見送った。家内が遂に発熱、境港市のクリニックの発熱外来受診。注射、施薬して帰船、就眠。19時出航予定を翌朝8時まで停泊して台風余波回避。隠岐の島陰で台風やり過ごす作戦。

D14；8/11@釜山；6号は韓国を北上して北朝鮮直撃した模様。家内は船室で休養。



孫と私は市内ツアーに参加。甘川洞文化村（朝鮮動乱中の難民が丘の上に不法滞在し、その跡をアートオブジェなどで観光資源化した新人気スポット。釜山博物館、蟹専門店で蟹尽くし昼食。国際市場で買い物ツアーにて韓国製化粧品等購入しました。

D15,16;8/12@洋上～8/13 那覇；航路は釜山ー那覇を東シナ海一直線が、ドクターヘリコー

ルの為鹿児島県岸に寄ってホバリングで吊り上げ。この迂回で5時間ロスタイム発生。那覇市内ゆっくりコースを3人で参加。ホテル直行でbuffet昼食。首里城公園（火災後修復中をガラス越しに見物できる）、県立博物館。国際通りで買い物。お菓子博物館で土産購入。17時で喫茶店はすべて閉店、仕方なくコンビニでアイスと珈琲調達、国際通りのベンチで休む。那覇は海風で夕方は涼しく快適。北海道より温度が低くてGood！台風7号回避の為、高知寄港中止、奄美諸島島陰で台風やり過ごす。上陸地で最高気温が一番低いのはなんと那覇だった！南北逆転の異常気象を実体験した。



D17,18;、19;8/14,15,16 終日洋上、東京帰着；高2の孫はフットサル大会に出場して決勝戦



まで頑張ったが最後は惜敗。台風回避に伊豆大島近辺から東京湾に向かう。17時に下船、ターミナルビルから外に出られて安堵。タクシーで荷物と共に乗り込み。喜多見の我家に帰還。ソファで一休みして近所のレストランに夕食、20日振りにバスタブのお風呂に入った。

旅程総括；今夏の異常猛暑と台風多発、西日本の航海は台風6、7号に翻弄されて相次ぐ

航路変更、寄港地中止、台風回避行動とはいえ救急搬送5件は過酷さを示す。

孫たちにはまたとない見分を広める良い機会だった。感心したのは友達作りが上手で台湾人、ペルー人、NZマオリ族、福岡、熊本、千葉などのキッズとすぐに仲良くなる。

真夏のクルーズは陸上行動が異常猛暑日続きで高齢者には熱中症との闘いで過酷。

高齢者の真夏のクルーズは避けるべし。

以上 あらんどぼん



共存

自分が住んでいる所がどんな歴史を辿って今に至ったか？ 少し考えてみました

自宅のすぐ近くに公園があるのは前にもこのレポートに書いたことがあります

昭和の初め頃、ここで「蜃気楼」が見えたそうです。
この現象は 地表の気温が場所によって異なるとき、
空気の密度によって 光線が屈折して見える現象
だそうです。 昭和 24~25 年頃まで多摩川の河原の
石が転がっていたので うなずける話です
その後、整備されて今の公園ができたのです
当時は道路から富士山が見えました。



家の近くの公園

また、近くに学芸大学附属高校があります。
青山にあった青山師範学校が 1936 年、
世田谷下馬に移ってきました。
広大な敷地に一時期は小学校、中学校も在りましたが
1964 年、師範学校（大学）は小金井に移転して
今は学芸大学附属高校だけが在ります。
敷地も分割されて半分が世田谷区の公園になり、
またその一角が保育園になっています。
その間に 図書館短大や、放送大学ができた時期が
ありましたが いつしかそれぞれの場所に移って行き、
街は人口が増えてだんだん変わっていきました。



学芸大学附属高校正門



高校の雑木林跡地

時代は進み令和に入り、環境の変化の速度が急速に
増しました。街を歩いていると あちこちで古い家が
取り壊されては すぐに新しい建物が建ってしまいます。
その変化の速いこと、年々加速しています。
昨日あった建物が今日はもう廃材の山。
立派な庭木は根こそぎ取られてしまい、
歩きなれた街の風景があっという間に変化して、
ここにどんな家があったのか思い出せないくらい
急変してしまいます。
自分が道を間違えたのかと思うほどに。



取り壊された家の跡地

その一つの例ですが、近所にバブル期後半に建てられた立派なお宅が在りました。上等な家の造りと、レンガの飾りのついた塀の中は 沢山の木々が植えてありました。夜になると庭の中は防犯を兼ねてか、きれいな電灯が灯されたりして 栄華を誇っているように見えました。いつも手入れが行き届き 百年でも二百年でも 住むことができると思われるほどしっかりと建てられた家でした。それが、昨年突然取り壊され更地になってしまったのです。そして今年に入り そこに何軒もの家が建ち始め 今進行中です。

また、学芸大学附属高校の塀の中も グランドの一角にあった雑木林が伐採され、今は広々とした大空が広がっています。しかし間もなく大きな建物が建ってしまうそうです。他にも至る所で壊して建替えています。

一方、私宅では今年は早春から 公園やお隣の庭から鶯の鳴き声が聞こえ 感激していました。

…キョッ、キョッ、…ケキョ、ケキョ、…ホーホケキョ、ホーホケキョ…
なんとのだかななのでしょう！ 日々成長していく様子がわかります。
しかし、しばらくして気がつきました！ 大きな木立が無くなり雑木林が伐採され、行き場がなくなりここに逃れてきたのです。

人が年を取り、世代交代して主の居なくなった土地は細分割され、新しい生活が始まる。
——それは自然の成り行きなのでしょう——
機械文明の余りにも発達してしまった人間社会。動物や植物にも もう少し棲む場所を残しておけないのでしょうか？
巢を追われた小鳥や小動物達のことを思いました。



世界遺産 富岡製糸場

上信越自動車の松井田妙義 IC より
妙義神社（妙義山の主峰、白雲山に鎮座）
一之宮貫前神社（表参道を登り総門をくぐって
から参道を下った先に社殿が配置されている）
を通り富岡製糸場へ行きました。



妙義神社



一之宮貫前神社

近代日本の夜明け、明治5年日本で最初の
官営模範工場として富岡製糸場が誕生しました。
生糸産業のフランスやイタリアで蚕が伝染病に
かかって死滅して繭の供給がストップしたことも
あり、明治政府は近代国家設立のため生糸は貿易
で需要が高く、重要な輸出品となると考えた。



富岡製糸場



高品質の生糸を大量生産できる器機製糸技術を学ぶ為、
器機生糸の先進国フランスから技術者を招き、器機製糸工場が建てられました。

この機械技術を習得する伝習工女 13 歳より 25 歳
までを全国から募集しましたが命を犠牲にするような
人身御供と思い、フランス人が工女生き血を採って飲むと
いう噂が大評判になり、応募者が現われませんでした。
設立者のひとり尾高惇忠（深谷のうまれで渋沢栄一の師、
建設計画に当初からかかわる富岡製糸場初代場長）が娘の
尾高勇を故郷下手計（しもてばか）から呼び寄せました。



勇は父の心中を察して、製糸伝習工女の一員として働きました。

勇の技術習得を取得することに刺激をうけ、下手計村の少女 5 人、
勇の祖母和志 62 歳も志願し入場し、のちに和志は工女取締役までしました。
全国から入場し、そのなかには上州、武州の旧播磨の人や静岡県は旧旗本の娘も
いました。整糸場が官営のころは、工女たちの労働環境は先進的で寄宿舎が
完備し一日の労働時間は 8 時間で日曜日は休み。給与は繰糸技術の等級により
格付けされました。

月給制、年末年始と夏季休暇に 10 日の休暇があり。寮費、食費、医療費、制服はすべて工場負担でした。

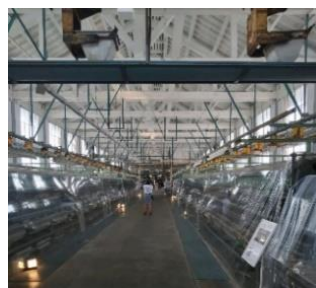
フランス人の医師が診療を担当して、入院施設を持つ病院がありました。

日本各地に器機少女製糸工場が建てられ富岡製糸場で製糸技術を学んだ工女の中には故郷に設立された工場で指導者として活躍した者もいました。

富岡製糸場の設立には、深谷市出身の渋沢栄一(近代日本資本主義経済の父)、尾高惇忠、(建設の資材調達)塚直次郎(建設計画)などが尽力しました。

建設地は整糸に必要な繭(富岡は養蚕が盛んで良い繭がとれる)良質な水と建設に必要な広い土地、ボイラーの燃料となる石炭(亜炭)(高崎効外で採掘)確保、水利や交通の便が良く、製品の輸送に適している群馬県富岡の土地に決まりました。

製糸場は明治 5 年 10 月操業を開始し明治 26 年に民営化され、三井家、原合名会社(横浜の実業家原宮太郎の会社で生糸売込み会社、横浜銀行、三溪園も作った)へと経営が移りました。



その後昭和 14 年から昭和 62 年に操業停止まで片倉工業が経営しました。

その間、115 年間一貫して整糸工場として稼働し続けて、操業停止まで使われてた自動繰糸機や建物群も当初のまま保存されています。

平成 17 年富岡市が保存、管理を引き受けました。

国の大切な文化財は平成 26 年富岡製糸場と絹産業遺産群としてユネスコ『世界遺産一覧』に記載されました。



建物群は木骨煉瓦造りで、主要部分の柱や梁など骨組みを木材で組み壁面をレンガ積みにした和洋折衷の建物はトラスト構造のため広い場内には中央に柱がない大空間です。

照明設備が不十分のため建物の上部までガラス窓を使い自然光を利用しました。

蒸気エンジン、窓ガラスや鉄製の窓枠はフランスから輸入しました。

又生糸に欠かせない大量の水を貯める巨大な鉄製水槽、煉瓦積みの地下排水構など、排水溝、蒸気エンジンとボイラーが置かれた蒸気釜もあります。

建築では西欧の近代的技術と江戸時代からの日本の伝統技術が融合されました。

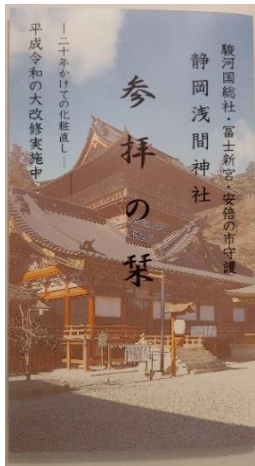
整糸工場が稼働していた当時の趣を感じながら帰宅しました。

久能山東照宮

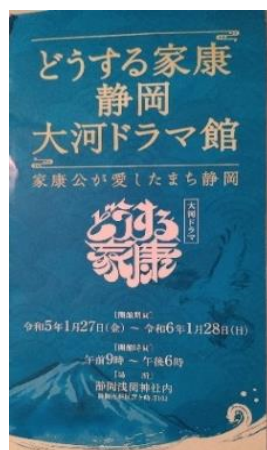
玉川台区民センターが主催する日帰りバス旅行に友人と参加しました。

コースは 区民センター⇒東名、新東名⇒静岡 IC⇒静岡浅間神社（大河ドラマ館）⇒清水（昼食）⇒日本平ロープウェイ⇒久能山東照宮 です。

費用は 9,000 円でしたが、旅行支援で 2,000 円と 1,000 円のクーポン券が支給されました。



まず静岡浅間神社にお参りました。静岡浅間神社（富士新宮）は主に富士山に対する信仰の神社です。富士信仰に基づいて富士山を神格化した浅間大神を記紀神話に現れる木之花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）と見てこれを祀る神社です。私は富士宮市にある富士山本宮浅間大社、富士河口湖町にある河口浅間神社、富士吉田市にある新倉富士浅間神社、北口本宮富士浅間神社等には行ったことがあるのですがここは初めてでした。富士山を中心に静岡県と山梨県に主な浅間神社でも 9 神社あります。浅間神社は徳川家の歴代将軍が大切にしていた神社でもあり、今年（2023 年）は NHK で放映中の、「どうする家康静岡大河ドラマ館」がオープンしていました。家康が元服式を行った浅間神社の境内にあり、ゆっくり見学出来ました。



その後清水駅前の BLANC OCEAN で昼食「駿河御膳」をいただきました。8 階にあり、広々とした窓からは清水港や富士山が見え気持ち良いレストランでした。



バスで日本平へ。日本平駅からロープウェイで久能山駅へ。ゴンドラ内では久能山や日本平の紹介アナウンスがあり眼下の屏風谷の絶景を眺めながら 5 分の空中散歩です。久能山駅で降り、階段を上り国宝久能山東照宮へ。久能山東照宮は徳川家康公をご祭神としておまつりする全国東照宮の創祀です。江戸幕府を創始し、晩年を駿府で過ごした家康公は生前家臣に対し、自分の死後について「遺体は駿河の国の久能山に葬り、江戸の増上寺で葬儀を行い、三河国の大樹寺に位牌を納め、一周忌が過ぎて後、下野の日光山に小堂を建てて勸請せよ、八州の鎮守になろう」との遺言を残されました。この御遺命により御遺骸を久能山に埋葬し、その地に 2 代将軍秀忠公

の命により久能山東照宮が創建されました。長い階段を上ったので、友人は途中で引き返しましたが、私はその上にある家康公のお墓にも行ってみました。



ミホ子

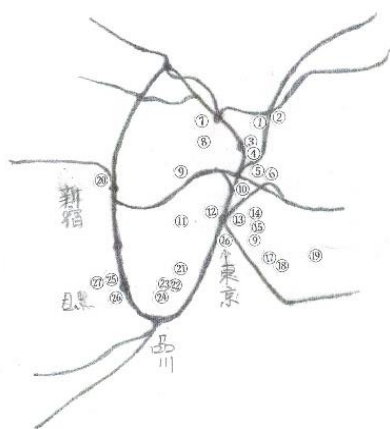
都内の歌舞伎由縁の地

以下のレポートは、生涯大学の終了記念作品用に作ったものです。ウォーキングレポートの提出期限に近いため、今回は両方に使い回しました。その為、生涯大学のフォーマットによっています。ただ生涯大学の提出枚数はA4一枚なので、ウォーキングレポート用には2頁目に写真を羅列します。

=====

歌舞伎由縁の地は
都内の何処に、
何カ所位ある
のでしょうか？

山手線略図



1. 浄閑寺：遊女達二万人以上がここに眠っているという（荒川区南千住）
2. 回向院：小塚原の刑場があった場所で、牢獄死や刑死者等を供養するために開創された（荒川区南千住）
3. 吉原界限：遊郭があった場所。「助六由縁の江戸桜」をはじめ数々の歌舞伎の舞台（台東区千束）
4. 浅草寺・浅草神社界限：舞踊「三社祭」の舞台（台東区浅草）
5. 花川戸公園：九代目団十郎の歌が刻まれた助六歌碑（台東区花川戸）
6. 三囲土手：「法界坊」「お染の七役」「桜姫東文章」等でおなじみの場所（墨田区向島）
7. 吉祥寺：「八百屋お七歌祭文」お七、吉三の比翼塚（文京区本駒込）
8. 赤門：「加賀鳶」の舞台（文京区本郷）
9. 於岩稲荷宮神社：「東海道四谷怪談」新宿区左衛門と中央区新川の2カ所ある。

10. 柳森神社：「お祭り佐七」（千代田区神田）
11. 日枝神社：「番町皿屋敷」（千代田区永田町）
12. 将門塚：平将門の首を祀る塚（千代田区大手町）
13. 日本橋：「越後獅子」舞台背景（中央区日本橋）
14. 大安楽寺・十思公園界限：伝馬町の牢獄跡。「四千両小判梅葉」（中央区日本橋）
15. 源氏店（玄治店）の跡：「切られ与三郎」の名場面（中央区日本橋）
16. 江戸歌舞伎発祥の地の碑（中央区銀座）
17. 深川不動：五代目菊五郎の扇の碑（江東区富岡）
18. 浄心寺：「筆屋幸兵衛」（江東区亀戸）
19. 隠亡堀跡：「四谷怪談」の隠亡堀の場の戸板返しが極めつき（江東区扇橋）
20. 十二社熊野神社：「怪談乳房榎」（新宿区西新宿）
21. 飯たきの井：「伽藍先代萩」の政岡のモデル、伊達家の浅岡の局が炊事したと伝わる井戸（港区芝公園）
22. 芝大神宮：「め組の喧嘩」（港区芝大門）
23. 赤羽橋：「村井長庵」の十兵衛殺しの場（港区東麻布）
24. 泉岳寺：「仮名手本忠臣蔵」のモデルとなった赤穂浪士47士の墓（港区高輪）
25. 正覚寺：「伽藍先代萩」浅岡の局（三沢初子）像（目黒区中目黒）
26. 目黒不動尊：「浮世柄比翼稲妻」権八、小紫比翼塚（目黒区下目黒）
27. 祐天寺：怪談「累ヶ淵」の累塚（目黒区中目黒）

多くの歌舞伎由縁の地が現在まで残っていることから、歌舞伎がいかにかに人々に愛されていたかが窺えます。また、由縁の地が都内の中心地と下町に集中していることも分かります。（離れていて、地図に書き込めなかった由縁の地も数カ所ありますし、他にもまだまだあるでしょう）

夏休み中に実際数カ所訪れましたが、訪れるに際し検索をしたところ、歴史上の事実と歌舞伎のストーリーとは大きな違いがあることも分かりまし

た。例えば「忠臣蔵」は概ね史実に則っていますが、「四谷怪談」は鶴屋南北の作品。(実在の於岩さんは働き者で田宮家の再興に寄与し、伊右衛門さんと仲良く暮らしたとのこと。) また、吉祥寺はお七と寺小姓吉三が出会った場所とされていますが、文献には16才の娘が火刑に処せられた旨が記載されているだけです。事件の3年後に井原西鶴が「好色五人女」で取り上げたことで広く知られるようになり、お七を主人公にした多様な趣向が凝らされた作品が生まれています。

明暦をはじめ度々の大火で神社仏閣が消失あるいは移転したり、太平洋戦争の空襲で壊滅的な被害を受けたり、更に戦後の再開発の区画整理で河川も道路も様相がすっかり変わってしまいました。吉原の場合も、吉原という地名は無く台東区千束。よすがは、交差点の標識「吉原大門」と細々と立っている「見返りの柳」のみです。

史実はどうであれ、300年～400年の時代の荒波をかい潜ってなお存在し続けていることに驚き感慨が深いです。将門塚と泉岳寺では外国人を見かけました。外国の方々が、アニメを愛しその聖地を訪ねるように、将来、日本の伝統芸能をディープに愛し、由縁の地巡りをしてくれることを夢想します。

伝統芸能の火を絶やさないためにも、先人が守ってきた由縁の諸々を私たちの世代もしっかり守って次世代に引き継がなくてはいけないと思いました。

「ぴあ 歌舞伎ワンダーランド」参照

=====

将門塚 (No.12)

首塚を壊して建物を作ろうとすると関係者に不審な死が続き、度々計画を中止。将門の怨念か？



吉原界限 (No.3)



交差点標識「吉原大門」

見返りの柳



中が見えないように不自然に曲がる道路



三囲土手 (No.6)

隅田川の対岸で。今は整備されているが、昔は寂しい場所だったはず。



飯たきの井 (No.21)

息子が毒殺されることを恐れてこの井戸の水で料理をしたとされているが、実際には毒策事件の記載はない。



玄治店(源氏店)跡

(No.15)

幕府の医師岡本玄治屋敷跡。「与話情浮名横櫓」の舞台

泉岳寺 (No.24)

四十七士の墓



於岩稲荷田宮神社

(No.9)

「東海道四谷怪談」を演じる役者は、この神社と道路の向かい側のお岩稲荷陽運寺、中央区新川のお岩稲荷の3社に安全祈願をするとか。

2023年9月 ドジアツ



お気に入りの道

喜多見から都心方面(成城)に行くには、野川と国分寺崖線を越える必要があります。徒歩や自転車では、橋を渡り、なかなかの坂をのぼって行くのです。

いろいろと試しているうちに、人や車の通りが少なく静かでまわりの景色も素晴らしい道を見つけました。

一番の近道は、**上野田橋**を渡り、**不動坂**を登るのですが**不動坂**は肌感覚で 60 度はあるような折れ曲がった急坂です。

緩やかな坂を選ぶとすれば、**世田谷通り**へ出てダラダラと相当の距離を行くことになり、おまけにすれ違う人や車に神経をすり減らされます。

それで北へ少し遠回りして、**谷戸橋**を渡り、**ビール坂**(昔 サッポロビールの工場があった)を登り、**みつ池緑地**を片側を感じながら、不動坂を登り切った所に出るコースが、わたしの大好きな道となりました。



まず谷戸橋から 左のような素晴らしい景色を見ながら、野川を渡り、次に 30 度程の**ビール坂**をゆっくりと登ります。

春は見事な桜、特に左斜面のしだれ桜の並木は多くの写真家を集めているようです。

登り切ったところから、成城の素敵な家並みが続きます。その中に樫尾記念館があり、その庭は国分寺崖線の斜面を利用して造られ、下の道まで石段で下りることができます。



西側の家並みに 1 か所途切れた所があり、晴れた日には その隙間から富士山が額縁に入ったように見え、その日は 1 日幸運に恵まれるのではないかと期待します。

西側の後半は成城みつ池緑地に沿って、思い切り森林浴をしながら進みます。



成城みつ池緑地

成城4丁目の国分寺崖線の一部を生かして、世田谷区がボランティア団体の人々の協力を得て整備をすすめ、たぬきも住むほど自然あふれる広い緑地帯です。

ヒマラヤスギの大木をはじめとして、自生する木々を守り育てて素晴らしい空間を作り上げています。

世田谷区の史跡である旧山田家住宅もその一部にあります。

あまり人影は見られず、散策してリフレッシュするには最適です。

通りすがりに「成城みつ池緑地拡張整備のお知らせ」という張り紙を見つけました。自然が削られていく現在に嬉しいことだと思います。



傾斜30度ほどの**ビール坂**は下りが最高です。
登りの苦しさもなく、特に自転車でのスピードを感じながら、みどりを感じながらの帰路はお気に入りの道の中でも随一です。

2023.9.4 ウォーキングばあば

立つ歩く立ち止まる・「朝鮮」

'2309Eimei

“官軍だけ祀る藩閥の靖国”

靖国神社の大鳥居の真ん前のビルで働いていた頃。労使の交渉が揉めて、外側のガラス一面にステッカーを張り出して惨憺たるビルの外形に加えて、一夜活動家数人と計らって墨痕鮮やかな垂れ幕、それも屋上から20Mにもなるのを何本も下げ、その一本に「靖国神社国家護持反対」と書いた。さすがに剛毅?なビル管理者も音を上げて、守衛さんを動員して屋上から引き揚げて撤去しようとする、そうはさせじと労組側は下から引っ張るといふ、綱引きの実力行使となつて、見守っていた多数の口から思わず出た言葉が「危ない」だった。前の東京五輪のすぐ後のことだから、もう60年も前のことになる。戊辰戦争の官軍側死者だけを祀る?戦前戦中の話ではない、戦後の民主主義の時代に国家分断の神がかりはあり得ないという、単純な理屈の反対でした。

“過ちて革めるに憚りなし”

8月18日の朝まで生テレビで、以前の常連だった舩添元都知事が語っていました。自民党の改定憲法草案に関わつた折、13条個人の尊重とあるのを、人の尊重としたのは間違い。「人」というのは犬や猫と同じ生物学の言葉。近代的な人格を持った人間は「個人」のままだがよい、ということらしい。さすが元東大法学部の「秀才」は間違いに気が付いた。

“震災記念恥の文化思い出す”

8月22日、近づく関東大震災記念の記事に刺激され、十年ぶりで大久保駅近くの高麗美術館を訪ねた。同じような人が多かったと見えて、大入り満員。

“老人に危ないなんて言うか縮小国家”

この騒動の数年後、私たちがこのビルから出るようになった折、守衛さんたちから、大量の銀杏が届けられて、靖国神社の参道の周りの銀杏並木から、早朝に集めたものだと言われたことを、何故か思い出した。

60年前のあの活動家たちも歳を取り、亡くなつたり、御存命でも寝たきりも。ようやく動いている私も、誰が見ても紛うことない老人で、乗り物の席を譲られたり、道を歩いて危ないですよ、などと言われる。けれども、本当に「危ない」と言われなければならないのは、少子化が超スピードで進行するこの縮小国家の将来ではないのか。

8月18日、日米韓の首脳は米大統領専用山荘キャンプデービッドで会談、中朝を念頭に、安全保障上の緊急事態の協議。しかし、米の核を含む中古兵器で、サイバー時代の安心など語ってほしくありません。

“この国の歴史を照らす隣国の眼”

雑誌「世界」8月号で、「安倍国葬」をめぐる隣国韓国の複雑な感情が紹介されています（「封印された歴史」参照）。政治家たちの弔辞の中で、新渡戸稲造のただしきこと（義）をなす勇気の人安倍晋三とか、長年の盟友伊藤博文の死を悼む山県有朋の歌が強調されてなど、はじめて知った！

隣国の眼が、この国の歴史オンチを照らす鏡になっています。

“文人政治に未来の風通し”

「世界」9月号で、書店を開いた文在寅前韓国大統領のインタビュー。高校時代に読んだ李孝石の「そばの花が咲く頃」が印象的でと語る文氏は家庭菜園でそばを・・・。